

奄美大島龍郷町浦方言の敬語形式の運用法

— 人間関係の差異に着目して —

重野 裕美

Honorific Form Usage in Amami-Oshima Tatsugo-cho Ura Dialect:

Focusing on Human Relations

Hiromi SHIGENO

キーワード：浦方言，敬語形式，運用法，人間関係の差異

1. はじめに

これまで奄美大島龍郷町浦方言を対象として、動詞を中心とした敬語形式の体系化とその主な機能、承接規則を解明してきた(重野 2010a, 2010b, 2012)。本稿は、話し手と聞き手による対者場面に着目し、人間関係の差異による敬語形式の運用の実態を明らかにすることを目的とする。具体的には、第4節で話し手としての話者が聞き手を「目上」「同等」「目下」と判断する際、どのような基準が働いているのかを明確にする。それを踏まえて、第5節では応答詞、人称代名詞、接辞、述部に認められる敬語形式について、話し手と聞き手との関係性による運用例を示す。人間関係の差異による敬語形式の使い分けを明確にすることで、より話者の生活実態に沿った記述を目指す。

2. 先行研究

人間関係による待遇表現(主に敬語形式)の使い分けを考慮した研究としては、国立国語研究所(1958, 1983)、真田(1990)、方言研究ゼミナール(1997)などがあげられる。先行研究では、主に話し手と聞き手という対者場面における人間関係に応じた待遇表現の記述がなされている。具体的には、年齢、親疎関係、血縁関係、性別、社会的地位という位相差に応じた敬語形式の使い分けが記述されている。これまで、浦方言の敬語法の使い分けの基準は、親疎関係よりも年齢が「目上」「同等」「目下」の判断基準となっていることを指摘してきた(重野 2010b)。本稿では、年齢と親疎関係以外の要因も含めた人間関係による場面差の判断基準について詳述していく。

3. 調査の概要

ここでは、調査の対象地域、調査方法について述べる。

3.1. 対象地域

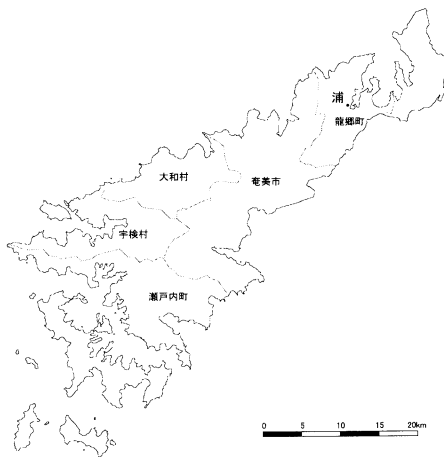


図1：奄美大島

奄美大島は奄美諸島の北部に位置する(図1参照)。行政区画は鹿児島県に属するが、言語・文化等は沖縄本島を中心とする琉球文化圏に属する。本稿では、奄美方言の中でも、奄美大島の北部に位置する龍郷町浦方言を対象とする。浦方言は主に50歳代以上の方言話者が母語として使用している。人口は401人、世帯数は190世帯である(2012年11月末現在)。奄美方言は、他の琉球諸語と同様、世代間の伝承が断絶しており、2009年、UNESCO(国際連合教育科学文化機関)に消滅に瀕する危機言語として登録された。このことをきっかけに、さらに方言の記録・保存・継承の必要性が認識されるようになった。敬語形式を自由に操れるのは70歳代以上の

方言話者である。いわゆる伝統方言が消えようとしている現在、敬語法は記述が急がれる分野の一つである。

3.2. 調査方法

調査期間は2012年11月30日～12月2日である。調査対象とした話者は、80歳男性（調査時）の浦方言話者で、浦集落以外の外住歴はない。両親ともに浦集落出身者であり、妻（79歳：調査時）も両親ともに浦出身の浦方言話者である¹⁾。

調査は対者場面を想定し、聞き手との人間関係により敬語形式がどのように変化するかを観察した。

4. 「目上」「同等」「目下」の判断基準

話者はどのような基準で「目上」「同等」「目下」の判断をおこなっているのだろうか。その実態を解

明すべく、人間関係による場面差が動詞の形態変化にどのような影響を与えるのかをまとめたのが表1である。対者場面を親疎、ウチソト（血縁関係・地理的距離）、年齢（上・同・下）に分け、聞き手（=動作主）に「明日は家に居るか。」とたずねる場合と、話し手（=動作主）が「うん、家に居るよ。」と答える場合、「居る」の部分がどのように変化するかを観察した。社会的地位を含めると場面が複雑となるため、本稿では扱わないこととする²⁾。なお、性差による変化は認められなかったため、表1には反映させていない。「居る」の意味が非敬語形式の wuri（共通語（現代日本語を以下「共通語」とよぶ）の「居る」に相当）は□、丁寧語形式である wurjori（共通語の「居ます」に相当）は○、尊敬語形式である m'ori（共通語の「いらっしゃる」に相当）は◎で示す。

表1：人間関係による場面差

対者場面				動作主				
				聞き手	話し手			
親	ウチ	血縁関係	年齢	上	祖父母	◎	○	
					父母	◎	○	
					兄弟	◎	○	
			伯父・伯母	◎	○			
			叔父・叔母	◎	○			
			従兄・従姉	◎	○			
		同	叔父・叔母	□	□			
			従兄弟・従姉妹	□	□			
			兄弟・弟妹	□	□			
		下	叔父・叔母	□	□			
			従弟・従妹	□	□			
			弟・妹	□	□			
	ソト	地理的距離	年齢	上	集落内	◎	○	
					町内	◎	○	
					島内	◎	○	
			同	集落内	□	□		
				町内	□	□		
				島内	□	□		
		下	集落内	□	□			
			町内	□	□			
			島内	□	□			
		ウチ	地理的距離	年齢	上	集落外	◎	○
						町外	◎	○
						島外	◎	○
同	集落外			□	□			
	町外			□	□			
	島外			□	□			
ソト	地理的距離	年齢	上	集落外	◎	○		
				町外	◎	○		
				島外	◎	○		
		同	集落外	□	□			
			町外	□	□			
			島外	□	□			
疎	ウチ	血縁関係	年齢	上	祖父母	◎	○	
					父母	◎	○	
					兄弟	◎	○	
			伯父・伯母	◎	○			
			叔父・叔母	◎	○			
			従兄・従姉	◎	○			
同	叔父・叔母	□	□					
	従兄弟・従姉妹	□	□					
	兄弟・弟妹	□	□					
下	叔父・叔母	□	□					
	従弟・従妹	□	□					
	弟・妹	□	□					
疎	ソト	地理的距離	年齢	上	集落内	◎	○	
					町内	◎	○	
					島内	◎	○	
			同	集落内	□	□		
				町内	□	□		
				島内	□	□		
		下	集落内	□	□			
			町内	□	□			
			島内	□	□			
		ウチ	地理的距離	年齢	上	集落外	◎	○
						町外	◎	○
						島外	◎	○
同	集落外			□	□			
	町外			□	□			
	島外			□	□			
下	集落外	□	□					
	町外	□	□					
	島外	□	□					

表1から、次の3つのことが明らかとなった。

- ①親疎、ウチソト（血縁関係・地理的距離）の要因よりも、年齢の基準が動詞の形態変化に影響を与える。
- ②動作主の年齢が話し手と同等以下は「目下」としてまとめられる。浦方言は「目上」「目下」の2項対立である。
- ③年齢の基準を重んじるため、身内に対しても尊敬語形式を用いる。

以上のことから、「目上」「同等」「目下」の判断基準は年齢が最も優先されることが確認された。年齢の基準は、一歳差から適用される³⁾。年齢が下だと明らかに分かっている場合は非敬語形式からなる文体を用いる。次節では、人間関係に応じた敬語形式のあらわれ方について述べる。

5. 浦方言の敬語法

ここでは、応答詞、人称代名詞、接辞、述部に認められる敬語形式について、話し手と聞き手との関係に着目しながら、各々の特色をみていく。「*」は非文を意味する。

5.1. 応答詞

(1) は目上、(2) は目下から名前を呼ばれた場合の応答詞である。どちらも、2拍目が高いアクセントとなる。

(1) 話し手<聞き手

ʔoo?
はい
(はい。)

(2) 話し手>聞き手

ʔiN?
はい
(はい。)

また、相手から何か言われて、再度その内容を聞き返す際も(1)、(2)のように2拍目のアクセントが高い応答詞を用いる。

(3) 話し手<聞き手

ʔoo? naa ʔikkai j'i-si
はい。 もう 一回 言う-継起
(はい。 もう一回 言って

kur-isjor-aN kai?
くれる-尊敬-否定 疑問
くだらないか。)

(4) 話し手>聞き手

ʔiN? naa ʔikkai j'i-si
うん。 もう 一回 言う-継起
(うん。 もう一回 言って

kur-I.
くれる-命令
くれ。)

相手から「これを食べてもいいか。」と聞かれて、「うん、いいよ。」と肯定の返事をする際の応答詞は以下のとおりである。肯定の返事をする場合は、1拍目が高い頭高か平板のアクセントとなる。

(5) 話し手<聞き手

ʔoo jiccjar-jot-too.
はい 良い-丁寧-よ
(はい いいですよ。)

(6) 話し手>聞き手

ʔiN jiccjat-too.
うん 良い-よ
(うん いいよ。)

否定の応答詞は、ʔaai一形式のみであり、聞き手の違いによる待遇差は認められない。応答詞以外の述部に待遇差が現れる。

(7) 動作主=聞き手、話し手<聞き手

ʔaai misjo-taN=ccjaa
いいえ 食べる.尊敬-過去=て.は
(いいえ 食べては

ʔik-jor-aN doo.
良い-丁寧-否定 よ
いけません よ。)

(8) 動作主 = 聞き手, 話し手 > 聞き手

?aai ka-daN=ccjaa
いいえ 食べる-過去=て, は
(いいえ 食べては)

?ik-aN doo.
良い-否定 よ
いけない よ。)

5.2. 人称代名詞

人称代名詞は, 指し示される人物により二人称代名詞の naN と j²aa が使い分けられる。性別による区別はない。また, 一人称と三人称においては, 待遇価値の異なる形態の変化は認められない。

表 2 : 二人称代名詞

人称	目上	目下
二人称	naN (あなた)	j ² aa (おまえ)

5.3. 接辞

接辞に認められる待遇法として wu- がある。共通語の「御」に相当し, 名詞に前接することで待遇価値を高める機能を担う。

(9) 話し手 > 聞き手

?uja=nu wu-kage doo.
親=の 御-陰 コピュラ
(親の 御陰 だ。)

共通語ほど生産性は高くなく, 談話資料としても wu-kage「御陰」の用例以外見当たらない。

他にも, 名詞に後接する -ganasi がある。共通語の「~さま」に相当し, 人称代名詞や人名に後接して用いられることはない。ことわざやお祈りのことばなど, 限られた文脈内で用いられる。

(10) ?uja-ganasi
親-さま

5.4. 述部

ここでは, 述部に認められる敬語形式について, 丁寧, 尊敬, 謙譲の順にみていく。

5.4.1. 丁寧法

丁寧接辞は -jor の一形式である。動詞・形容詞の語根もしくは語幹に後接する。名詞を丁寧形式にする場合は, コピュラ語根 dar- に丁寧接辞 -jor を後接させて丁寧語形式をつくる。

以下, 話し手が動作主で, 聞き手が話し手よりも (11) 目上, (12) 目下の場面の例を示す。

(11) 動作主 = 話し手, 話し手 < 聞き手

?assja jaa=cci wur-jot-too.
明日 家=に 居る-丁寧-よ
(明日 家に 居りますよ。)

(12) 動作主 = 話し手, 話し手 > 聞き手

?assja jaa=cci wut-too.
明日 家=に 居る-よ
(明日 家に 居るよ。)

聞き手が話し手よりも (13) 目上, (14) 目下の場面で, 動作主がバスの例を示す。

(13) 動作主 = バス, 話し手 < 聞き手

basu=nu k-jo-tat-too.
バス=が 来る-丁寧-過去-よ
(バスが 来ましたよ。)

(14) 動作主 = バス, 話し手 > 聞き手

basu=nu c²-jat-too.
バス=が 来る-過去-よ
(バスが 来たよ。)

形容詞も動詞と同様, 聞き手が目上の場合, 丁寧接辞 -jor を後接させる。

(15) 話題 = 気候, 話し手 < 聞き手

kjuu=ja homok-jo-N=jaa.
今日=は 暑い-丁寧-非過去=ね
(今日は 暑いですね。)

名詞の丁寧語形式の例を以下に示す。

(16) 話題 = 本, 話し手 < 聞き手

kurjaa hoN dar-jot-too.
これは 本 コピュラ-丁寧-よ
(これは 本 ですよ。)

5.4.2. 尊敬法

尊敬語動詞は、m^oori と misjori の2語である。話し手よりも目上の動作主の行為に対して用いられる。m^oori は「行く」「来る」「居る」「言う」「死ぬ(逝く)」の意味の尊敬語動詞である。(17)のように、尊敬語動詞を命令形にして目上に用いることが可能である。

(17) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手

kaN m^oor-I.
 ここ 来る. 尊敬-命令
 (ここに いらっしゃれ。)

m^oori は共通語の「～ていらっしゃる」に相当するアスペクトの尊敬語補助動詞としても用いられる。補助動詞として用いられる場合、非喉頭化子音となるため、mori となる。

(18) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手

sjeNsjee=ga jii cumugi
 先生=が 良い 袖
 (先生が 良い袖(を))

ki-ci mor-i.
 着る-継起 アスペクト. 尊敬-非過去
 着て いらっしゃる。)

聞き手が目上、目下に関わらず、動作主が目上の場合は、尊敬語動詞を用いる。(19)のように、聞き手が目上の場合、共通語は動詞の語根または語幹に丁寧接辞 -imas を後接させることが義務的である。一方、浦方言では(20)のように尊敬語動詞に丁寧接辞 -jor を後接させると非文となる。目上の動作主の行為・状態に対しては尊敬語動詞のみを用いればよく、聞き手の影響は受けない。

(19) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手

seNsee=wa asita ie=ni
 先生=は 明日 家=に
 (先生は 明日 家に

irassja-imas-u=ka?
 居る. 尊敬-丁寧-非過去=疑問
 いらっしゃいますか。)

(20) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手

*sjeNsjee=ja ?assja jaa=ci
 先生=は 明日 家=に
 (先生は 明日 家に

m^oo-jo-N=njaa?
 居る. 尊敬-丁寧-非過去=疑問
 いらっしゃいますか。)

misjori は「食べる」「飲む」の意味の尊敬語動詞である。「食べる」の意味に関しては、目上と目下の二項対立だけではなく、7歳前後以下の子どものみに用いられる toi があらわれる。これは、目下の動作主に対して用いられ、目上から目下への親愛表現と考えられる。話者より「toi (「食べろ」) は小学校の低学年ぐらいの子に言うが、その子が大きくなったら kamI (「食べろ」) の方を言う。kamI よりも toiの方が丁寧に感じる。」との教示を得ている。

(21) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手

misjor-I.
 食べる. 尊敬-命令
 (召し上げれ。)

(22) 動作主 = 聞き手, 話し手 > 聞き手

kam-I.
 食べる-命令
 (食べろ。)

(23) 動作主 = 聞き手, 話し手 > 聞き手

to-i.
 食べる-命令
 (食べろ。)

尊敬語動詞は以上の m^oori と misjori のみである⁴⁾。尊敬語動詞と交替することが不可能な動詞は尊敬接辞 -iNsJOR を語根もしくは語幹に後接させることで、尊敬語形式をつくる。

(24) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手

gurusa noor-iNsjo-I.
 早く 乗る-尊敬-命令
 (早く 乗りなされ。)

尊敬接辞 -iNsjo- に命令接辞 -I を後接させることが可能である。また、尊敬語動詞と同様、尊敬接辞 -iNsjo- の後に丁寧接辞 -jor を後接させると非文となる。

(25) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手

*naN=ja nuu siNsjo-jo-N=joo?
あなた=は 何 する. 尊敬-丁寧-非過去=疑問
(あなたは 何(を) なされますか。)

5.4.3. 謙譲法

謙譲語動詞には、?oseri, wugamjuri, sirareri がある。?oseri は共通語の「さしあげる」に相当し、「あげる」「くれる」「やる」という授受動詞に関わる謙譲語動詞である。wugamjuri は共通語の「何う」「お目にかかる」に相当し、「会う」の意味の謙譲語動詞である。sirareri は共通語の「申し上げる」に相当する「言う」の意味の謙譲語動詞である。以下に、動作主が話し手で、聞き手が目上と目下という場面における用例を ?oseri, wugamjur, sirareri の順に示す。

(26) 動作主 = 話し手, 話し手 < 聞き手

naN=zi kuN hoN ?osIr-oo.
あなた=に この 本 あげる. 謙譲-意志
(あなたに この 本(を) さしあげよう。)

(27) 動作主 = 話し手, 話し手 > 聞き手

j'aN=zi kuN hoN kurIr-oo.
おまえ=に この 本 くれる-意志
(おまえに この 本(を) くれよう。)

(28) 動作主 = 話し手, 話し手 < 聞き手

nagasa wugam-aN-ta=jaa.
長く 会う. 謙譲-否定-過去=ね
(長く お目にかからなかったね。)

(29) 動作主 = 話し手, 話し手 > 聞き手

nagasa ?ow-aN-ta=jaa.
長く 会う-否定-過去=ね
(長く 会わなかったね。)

(30) 動作主 = 話し手, 話し手 < 聞き手

?aN tuki duu=nu ?omoi naN=zi
あの とき 自分=の 意見 あなた=に
(あの とき 自分の 意見(を) あなたに)

sirarIr-I=ba jiccjar-joo-ta.

言う. 謙譲-仮定=ば 良い-丁寧-過去
申し上げれば 良かったです。)

(31) 動作主 = 話し手, 話し手 > 聞き手

?aN tuki duu=nu ?omoi j'aN=zi
あの とき 自分=の 意見 おまえ=に
(あの とき 自分の 意見(を) おまえに)

ji-i=ba jicja-ta.

言う-仮定=ば 良い-過去
言えば 良かったです。)

話者より「?oseri よりも ?oserjori の方が敬っている感じがする」との教示を得ている。

(32) 動作主 = 話し手, 話し手 < 聞き手

naN=zi kuN hoN
あなた=に この 本
(あなたに この 本(を)

?osIr-jor-oo.

あげる. 謙譲-丁寧-意志
さしあげましょう。)

謙譲語動詞の場合、丁寧接辞 -jor を後接させる方がより待遇価値が高くなる。この承接規則は、尊敬語動詞や尊敬接辞の場合と異なる。謙譲法では、丁寧接辞を後接させた形式の方を多く用いる。謙譲語動詞のみでも用いられることから、謙譲語動詞単独では待遇価値が下がってきたため、丁寧接辞で敬意を付加していると考えられる。

謙譲語動詞は以上の ?oseri と wugamjuri, sirareri のみである。尊敬法とは異なり、謙譲の機能を担った専用の接辞はない。そのため、話し手や目下の行為・状態を目上の聞き手へ伝えたい場合は、丁寧接辞 -jor を語根もしくは語幹に後接させる。

(33) 動作主 = 話し手, 話し手 < 聞き手

wa=ga s-jot-too.
私=が する-丁寧-よ
(私が しますよ。)

(34) 動作主 = 話し手, 話し手 < 聞き手

kuN hoN wa=ga mora-i-jor-oo.
この 本 私=が もらう-語幹拡張-丁寧-意志
(この 本 私が もらいましょう。)

?oseri は共通語の「～てさしあげる」に相当する謙譲語補助動詞としても用いられる。補助動詞として用いられる場合、語頭は非喉頭化子音を伴わないため oseri となる。

(35) 動作主 = 話し手, 話し手 < 聞き手

waN=ga naN=nu nimocu
私=が あなたの 荷物
(私が あなたの 荷物(を))

muc-ci oser-jor-oo.
持つ-継起 あげる 謙譲-丁寧-意志
持って さしあげましょう。)

5.4.4. 浦方言の述部に認められる敬語形態素

以下に、5節であげた述部に認められる敬語形式の形態素を表3にまとめる。

浦方言の敬語形態素は語根に相当するものが主である。丁寧法では派生接辞 -jor のみであり、それが謙譲法の派生接辞的用法を補っていることは5.4.3節で述べた。尊敬法の敬語形態素は、語根と派生接辞にあらわれるがともに共起することはない。

表3：述部に認められる敬語形態素

	接頭辞-	語根-	-派生接辞	-屈折接辞
丁寧	—	—	-jor	—
尊敬	—	m ^o or- misjor- mor-	-iNsjor	—
謙譲	—	?oseri- wugamjur- sirarer- oser-	—	—

6. 今後の課題と展開

本稿では、浦方言の敬語法について人間関係の差異による敬語形式の使い分けに着目しながら詳述してきた(5節)。「目上」「目下」の基準については、親疎・ウチソト(血縁関係・地理的距離)よりも年齢が優先されることを確認した(4節)。

今回対象とした話者は昭和7年生まれの話者である。基本的な用法については5節で述べたとおりだが、自然談話等の資料から丁寧接辞 -jor が尊敬接辞として用いられる用例があらわれ始めている。

(36) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手

naN=ja ?assja jaa=cci
あなた=は 明日 家=に
(あなたは 明日 家に

wur-jo-N=njaa?
居る-丁寧/尊敬-非過去=疑問
居ますか/居なさるか。)

この用法は伝統的な使い方からすると非文となる。話者はこの場面で m^oori の方が適切だと意識しながらも、wurjori でも動作主を敬っているから使っても構わないとする。この丁寧接辞が尊敬の機能を担う用い方は、対者場面よりも聞き手が目下で動作主が目上の第三者場面で顕著であることが判明してきている。今後は、敬語法の通言語的な体系変化の方向性やその原因についても資料を加えながら考察を進めたい。

注

- 1) 重野(2010a, 2010b)で浦方言話者として扱った話者は、言語形成期を主に隣の大勝集落、20歳から調査時までの60年前後の期間を浦集落で過ごしている。これまでの成果報告と重なる報告もあるが、本稿では再度、生え抜きの浦方言話者によるデータとして敬語形式の用例を示すことも目的とする。
- 2) 「聞き手 (= 動作主) の社会的地位よりも年齢の基準の方が優先される」との教示を話者から得ている。しかしながら、公的な場面や職場の場合、年齢の基準よりも社会的地位の方が優先されることがあるとのことである。今後、さらに場面差に

おける調査を進めることで運用法の実態を明らかにしていきたい。

- 3) 「見知らぬ人で年齢の上下の判断がつかない場合、四・五歳程度年齢差があると分かっている、最初は目上に対する表現を用い、年齢が分かり次第、それに応じた表現に変える」との教示を話者から得ている。「見知らぬ人（表1の疎・地理的距離がある人物に相当）」の設定場面は、出会いと年齢が判明した後では異なるが、本稿では後者の場面を想定して表に反映させている。
- 4) 「目が覚める」の意味の尊敬語動詞として wuzumjuri があるが、本調査に協力していただいた話者は「使わないし、聞いたことがない」とのことであった。そのため、本稿では、扱わないが、重野（2010a, 2010b）で協力いただいた話者や、他の集落の話者からは得られる尊敬語動詞である。wuzumjuri を理解語彙または使用語彙として用いる話者は、80歳代後半の場合が多い。世代差の可能性もあるが、その議論については別の稿で考察を進めたい。

引用文献

- 国立国語研究所（1958）『国立国語研究所報告11 敬語と敬語意識』秀英出版；東京
- 国立国語研究所（1983）『国立国語研究所報告77 敬語と敬語意識－岡崎における20年前との比較－』三省堂；東京
- 真田信治（1990）『地域言語の社会言語学的研究』和泉書店；大阪
- 重野裕美（2010a）「奄美諸島方言の敬語法－敬語形式の分布とその展開に着目して－」、『國文學攷』第208号，pp.(1)–(18)，広島大学国語国文学会
- 重野裕美（2010b）「奄美大島龍郷町浦方言の敬語法－全国共通語敬語法との比較を通して－」、『広島大学大学院教育学研究科紀要』第59号，第二部，pp.279–288，広島大学大学院教育学研究科
- 重野裕美（2012）「奄美大島龍郷町浦方言の丁寧語」、『広島大学日本語教育研究』第22号，pp.9–16，広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座
- 方言研究ゼミナール（1997）『方言資料叢刊 第7巻 方言の待遇表現』方言研究ゼミナール；広島